

会 議 概 要

会議の名称	令和2年度第2回社会教育委員会会議
開催日時	令和2年10月20日(火) 13時30分 開会 15時30分 閉会
開催場所	湧別町文化センター さざ波 中会議室
出席者名	宮澤委員長、深谷副委員長、石垣、梅田、平野、多田、三品、安瀬、 寺嶋、村田各委員 10名 教委～教育長、梅津課長、中島館長、藤本主幹、杉森主査、北村主査、 土佐主査、鈴木主事
欠席者名	武藤、杉原、佐藤委員
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 教育長あいさつ 4. 議 事 議案第1号 令和2年度前期社会教育事業の実施状況について その他【自由協議】スポーツ文化合宿誘致事業の現状と課題について
会議資料	令和2年度第2回社会教育委員会会議議案
会議録	■ 有 (□全文筆記 ■要点筆記) □ 無
備考	

●議案第1号 令和2年度前期社会教育事業の実施状況について

別紙資料に基づき各担当から説明を行った。〈以下質疑応答〉

(委員) 湧別小学校の図書室を拝見した際に、本の並びが関連されたものになっていたり、子どもたちが徐々に理解を深めていくように配置されていた。本の種類が豊富なことも大事だが、子ども達の目に留まるような工夫や周知などの努力が必要に思う。レイアウトは他の町内の小中学校も同じような並びになっているのか。また、図書館と学校間でレイアウト等も含めて協議は行っているのか。

(担当) 町内の小中学校の図書室も湧別小学校と同じようなレイアウトとなっているが、学校とは協議をしたことはない。

(委員) 学校で本を読むということは、図書館へ行くことにつながると思われるので、関係機関と連携して行っていただきたい。

(委員) 石垣さんの話についてですが、学校の教科書の中に本に親しみをもたらすような国語の授業があり図書館へ見学へ行くこともある。また、図書館のバスが学校に来たり、「配本」という図書館で選んだ本を学校へ届けてくれるなど、学校教育、社会教育連携をして行っている。今、石垣さんから話がありましたとおり、本の種類もそうだが、より子どもたちの目に留まる工夫などの思考を凝らして取り組んでいきます。

(委員) 今年については、青少年指導センター事業など、多くの行事が中止になっている中で、アフターコロナについて、今年が中止になっているので、来年度の参加状況が心配だ。ただ学校側が運動会等を中止しているのに、子ども会事業を行うといったことにはならないと思う。現状で来年の判断は難しいが、再度、来年度の事業については、その都度協議を重ねる必要があると思う。また、町民大学なども、オンラインの開催等の検討はニーズがあるかないかわからないが必要と考える。

(委員) 学校祭、学芸会など7月末頃に開催可否について協議を行っていた。あの頃は、全ての行事が中止という流れがある中で、ポイントとなるのが9月、10月になってどうなるかということだった。子どもの観点から見たら、子どもたちの学習の機会がなくなるということなので、できるだけやるということ。そして、それを見越して準備するという結論に至った。すると、9月以降からは、どう感染症対策を講じれば実施できるなど、実施するムードになってきたように感じる。感染症対策のガイドラインに沿ってできる限り例年通りの対応は考えている。

(教育長) まず子どもたちの安全が第一と考える。実施するにあたっては、この地域で事業を行うにはどういった対策が必要であり、こうすればできるといったことを関係者間でよく考え判断すること。また、子どもたちが制限のある中でより楽しく思えるような工夫を凝らして事業を行うことが大切と考える。感染状況が日々移り変わる中で来年どうするかとは安易にはとても言えない。一つ一つの事業を綿密に協議を行ったうえで、可能なものはやる。できないものはやめる。その中で、少しずつ日常を取り戻していくしかないように思う。

5 その他. 【自由協議】スポーツ文化合宿誘致事業の現状と課題について (別紙資料参考)

(課長) スポーツ・文化合宿誘致事業について、現在検討していることを、表のとおりまとめた。方策を記載してはいるが、ベストの案だとは考えていない。それぞれ意見があれば伺いたい、時間の都合上説明のみ行い、持ち帰っていただき次回会議に意見があれば聞かせてほしい。

○連絡事項

(担当) 11/15にオホーツク管内社会教育振興セミナーが置戸町にて行われる。人数が委員さん2名、教委1名となっている。持ち帰っていただき参加の検討をお願いします。

○遠紋B社会教育委員研修報告

10/18 実施の遠紋社会教育委員研修会へ、宮澤委員長、寺嶋委員が参加。研修会について、寺嶋委員から報告を行った。

○児童センター運営委員会委員について

2(てん末書用紙)

(担当) 児童センター運営委員会委員の任期が来年で終了を迎える。そのため、社会教育委員から1名推薦をいただきたい。(任期2年) また、町立学校の校長以外からということで依頼が来ている。

～この場で選出できなかったため～

会議終了後、委員長と相談の上推薦者を選出してよろしいか。

(一同) 差支えなし。

6. 委員長あいさつ～閉会 (15時30分)

令和2年度

第2回社会教育委員会議案

と き 令和2年10月20日（火）午後1時30分～
と ころ 湧別町文化センターさざ波 中会議室

<会議日程>

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議 事

議案第1号 令和2年度前期社会教育事業の実施状況について

5 その他

【自由協議】スポーツ文化合宿誘致事業の現状と課題について

6 委員長あいさつ

7 閉 会

湧 別 町 教 育 委 員 会

社 会 教 育 委 員 名 簿

役 職	氏 名	住 所	出欠	備 考
委員長	宮 澤 道	北兵村二区		
副委員長	深 谷 聡	計呂地		
	石 垣 誠 一	港 町		
	梅 田 唯 士	上湧別屯田市街地		
	平 野 寿 雄	上湧別屯田市街地		
	多 田 恵 美 子	緑 町		
	佐 藤 あ け み	登栄床		
	三 品 博 恵	南兵村三区		
	安 瀬 勇	上湧別屯田市街地		
	武 藤 智 和	開 盛		
	杉 原 武 純	旭		
	寺 嶋 誠 也	上湧別屯田市街地		
	村 田 一 平	中湧別南町		

教育委員会

教育長 阿部 勉

社会教育課長 梅津茂樹

社会教育グループ 主幹 藤本祐司

主査（社会教育担当）杉森伸一、主査（文化振興担当）土佐信太郎

主事 遠藤幸介、主事 鈴木健太、主事 原 茉畝

社会教育課参事 中島一之

図書館 館長（中島一之）

主査（湧別図書館）高橋結香梨、主査（中湧別図書館）北村公樹

ふるさと館 J R Y ・ 郷土館 館長（中島一之）、主任 林 勇介

令和2年度社会教育事業（上半期実績）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額 事業終了分のみ	実績（状況）等	中期計画 推進項目
基盤整備	生涯学習情報の収集・提供・相談体制の充実	年間	—	○情報収集と提供 ・生涯学習情報紙「湧く湧く」の発行（毎月） ・遠軽地区情報紙「なな・なんと情報」の発行（2カ月に1回）（遠軽町が担当） ・町ホームページによる事業PR ○相談体制の充実 ・学習に関する相談を受けられる体制整備に努める。	「湧く湧く」 印刷費 1,188千円	「湧く湧く」 印刷費 416千円	○情報収集と提供 ・生涯学習情報紙「湧く湧く」の毎月発行（6月号は原稿が不足し、発行中止。） ・遠軽地区情報紙「なな・なんと情報」の偶数月発行。（6月号は原稿が不足し、発行中止。） ・町ホームページによる事業PR（4月～9月） まちの話題 記事数10件（昨年同期55件） コロナの影響を受け、施設の開館状況や、事業の変更などの周知を行った。 ○相談体制の充実 ・地域住民の主体的取り組みを支援するため、相談体制の充実に努めている。	10-1 10-3
	指導者の発掘・養成・活用	年間	—	主体的な学習と地域貢献との好循環をすすめるため、様々な分野から指導者を発掘養成し、その活用を図る。	—	—		10-4
	団体活動の支援・育成	年間	—	団体リーダーの養成を図るとともに、団体活動が円滑に行われるよう支援を行う。	—	—		10-4
	生涯学習振興奨励事業	年間	—	（生涯学習住民活動推進事業） グループ・サークル等が主体的に行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行う。（補助率75%、ただし極めて公益性が高い場合は100%）	3件程度 300千円		上期実績なし	10-4
	施設の整備・運営・連携	年間	—	公共施設再配置計画など上位計画との整合を図りながら、施設の計画的な補修や整備を行うとともに事業連携・施設間連携により学習効果の向上を図る。	別紙施設整備計画のとおり	—	別紙社会教育施設整備計画に記載するとおり	10-2 10-5
家庭教育	家庭教育研修会	4/2(日)変更⇒ 2/14(日)	TOM変更⇒ さざ波	子どもを持つ親が一堂に会し、家庭教育の大切さについて学習を深める機会を提供する。健康こども課と連携し、ニーズの把握に努め定着を図る。PTA連合会へ後援依頼予定。	講師謝礼 100千円 需用費8千円		テーマ「子どもの健やかな健康を願って」 講師 未定 主催 教育委員会 後援 連合PTA（予定）	1-1
	健康こども課との事業協力	年間	—	健康こども課との打合せ会議を開催し、子育て支援センター、子育て世代包括支援センターとの協力体制の充実を図る。	—	—	家庭教育支援と子育て支援の連携強化に向けた打ち合わせ会議の開催 ・第1回 11月開催予定 ・議題 家庭教育研修会講師の選考について 保護者を対象とする事業に継続性を持たせる工夫	1-3 1-4
	家庭教育相談	年間	相談室ほか	教育アドバイザーによる子育ての不安や悩みについて身近に相談する機会を提供する。	—	—	校長と教育A/D間の連絡により随時教育相談に対応している。特に必要とする数名の保護者に対しては、直接の面談も含め継続的に相談をしている。	1-2
少年教育	児童宿泊研修会 ⇒ 中止	6/18(木) ～19(金)	ネイバル北見	社会性を培う機会として、全小学校5年生合同で、体験活動を実施予定であったが、十分な感染症対策と体験活動の目的達成との両立が困難であるため中止とする。	75千円 （1人2,500円 ×1/2助成） バス借上料90千円	0円	今年は6校、67名で実施予定であった。集団宿泊体験においては、実施規模の縮小や会場・内容の変更による対応は、本来期待する効果を失うものと判断したことから、実施または中止のどちらかとする前提で学校側の意見を求めた結果、中止と判断した（4月10日確定）。また、会場のネイバル北見も検討時点で開館のめどが立っていなかった。	2-1 2-4
	子ども会の育成・援助	年間	—	青少年指導センターの事務局支援とあわせ、単位子ども会や湧別地区サポート協議会のあり方について指導助言する。	補助金 400千円	補助金 400千円	子ども会員+育成者（保護者）合計740人（昨年925人）（子ども会安全会加入者数より） （関連事業に掲載） 4月24日、書面協議による総会開催。	2-2
	第1回子ども会リーダー研修会 ⇒中止	7/30(木) ～31(金)	五鹿山公園	住民自治の基盤ともなる地域子ども会の主体的な活動が進むよう、子ども会のリーダーとしての役割や心構えを学び、そのために必要な知識や技術の習得をめざす。また、青少年指導員の養成と活躍の機会とする。	青少年指導センター会計から支出	青少年指導センター会計から支出	児童の夏休みが減少になる中での実施は、児童の負担になること。宿泊を伴う事業であり、調理等の実習を含めソーシャルディスタンスを保つのが困難であること等により、6月8日中止判断をした。	2-1 2-2 2-3
第2回子ども会リーダー研修会	3/25(木) ～26(金)	紋別市生涯学習センター						

令和2年度社会教育事業（上半期実績）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額 事業終了分のみ	実績（状況）等	中期計画 推進項目	
少年	北海道ジュニアリーダーコースへの派遣	R3.1/9(土)~11(月)	ネイバル足寄	実践活動を通し、地域づくりやまちづくりに参画する青少年リーダーを養成することを目的に、ネイバル北見が主催する管内研修会。地域活動に生かしてもらうため、中学生・高校生の希望者を派遣する。	参加経費等10千円 ×3人=30千円			2-1 2-3	
	百人一首教室 ⇒中止	11月~1月 毎週土曜日	農村センター	日本古来の伝統の競技を通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。教室で継続指導することで、指導者と参加者の地域におけるつながりづくりも目指す。大会は実行委と教委との共催。小1~大人まで対象。	報償費26千円 需用費61千円	0円	10月13日実行委員会を開催。協議の結果、教室、大会ともに中止とした。	2-1 2-3	
	第52回新春交歓カルタ大会⇒中止	R3.1/17(日)							
	教育	湧うゆう湧くわく体験塾 ⇒8/8(土)~	年間 (月1回程度)	町内ほか	小学校4~6年を対象に、体験の機会を提供し、生きる力と地域への愛着を養成する。また、成人ボランティアの指導を仰ぐことで地域の教育力活用にも努める。	報償費30千円 需用費20千円	報償費15千円 需用費5千円	4月25日に入塾式を実施予定であったが、一旦6月に延期。6月上旬、コロナの影響は収まらず、入塾式を8月に再延期。再募集の上再開したが、参加登録は5名にとどまる。 実施済：8/8入塾式・パークゴルフ、8/22川釣り体験、9/5森林散策（愛ランドY.O.U雨天延期）、9/19パークゴルフ・愛ランドY.O.U 協力：パークゴルフ協会、湧別アドアック。塾生の意見も取り入れながら活動計画し、それに必要な協力を求めている。	2-1 2-2 2-4
		湧別町・新篠津村友好都市少年交流事業 ⇒中止	8/5(水)~7(金)	新篠津村(派遣年)	自然や産業体験活動など、児童の派遣と受入の交流を毎年交互に行うことで、お互いのまちの魅力を学ぶとともに交流の輪を広げる。小学校5~6年およびリーダーとして、中・高校生も参加。小学生は参加経費の半額、リーダーは全額町負担。	報償費105千円 需用費10千円 借上料395千円	0円	受け入れ先の新篠津村からの申し出により、5月7日、中止とした。	2-1 2-2 2-4
青年教育	青年団体の育成・援助	年間	青年会館ほか	子どもを対象とした冬季事業、屯田七夕まつりでの出店など、地域活性化に取り組む青年団体協議会を支援する。	補助金 160千円	補助金 160千円	令和2年3月23日総会を開催	3-1 3-2 3-3 3-4	
	成人式	R3.1/10(日)	文化センターささ波	新成人を祝い励ますとともに、社会人としての意識高揚を図る。町主催、教委主管。成年年齢引き下げ(R4)後も20歳を対象とする見込。 ※軽食ボランティアの募集 ※現小学6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費404千円 需用費41千円		軽食ボランティアの募集と昼食交流会の実施を取りやめ。式典は通常通り実施予定。	3-1	
成人教育	第44回湧別町民大学 ⇒9/24(木)~	9月~11月 全5回	文化センターTOM	有志実行委員会組織主催。各ジャンル講師を招き、今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供する。団体とのコラボ企画や、勤労世代の参加促進にも努める。町PTA連合会との連携事業。	運営費助成 2,000千円	運営費助成 830千円	6/16、8/11に実行委員会を開催。 6月実行委員会において、実施賛成派と慎重派に意見が分かれた。当初予定していた初回日程を延期して実施することで調整。5講師のうち2名辞退し全3回とした。 9/24黒川伊保子氏(99名)、10/30佐藤幹夫氏(湧高ラグビー部への激励訪問も予定)、11/13本田優子氏	4-1 4-2 4-3 4-4	
	第10回ふるさと講座	10/24(土)	文化センターささ波	町の人を講師に、歴史、産業、地域等について価値を探り、学び合い、地域貢献につながる機会を提供する。郷土学サークル「ふるさとから学ぶ会」との共催で行う公益事業。今年度テーマは「ホタテ」	講師謝礼 20千円		森義文氏(漁協参事)、町元直春氏(漁業)、寺本由美子氏(寺本商店)、石本武男氏(漁協組合長)を講師に、ホタテの養殖漁業、加工流通、生育環境などについて生の声から学ぶ。		
	第9回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅⇒中止	6/20(土)	五鹿山公園	講師の案内によってバスツアー形式でたずね歩き価値を共有。今年度テーマは「五鹿山」。感染症対策として現地集合現地解散とする予定。	講師謝礼10千円 借上料55千円	0円	沢口政一氏(東町)、白幡美栄子氏(港町)、佐々木年男氏(錦町：故人)を案内人に、五鹿山の花や野鳥などを紹介する企画を予定。 4月9日、学ぶ会との当初協議により、「バスツアー形式から現地集合・解散形式へ変更し、密集を避けて実施する」としていたが、その後、緊急事態宣言とともに社会的な自粛ムードが広まり、5月7日に中止を確定した。		
教育	PTA団体への援助	年間	-	各学校のPTAやその連合組織である町PTA連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円	補助金 180千円	連合PTA事業運営費の補助を実施。	4-2 4-4	
	ボランティア団体との連携	年間	文化センターささ波ほか	はまなすボランティアなど自主的な奉仕活動を支援する。	-	-		4-2 4-4	

令和2年度社会教育事業（上半期実績）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額 事業終了分のみ	実績（状況）等	中期計画 推進項目
高齢者教育	チューリップ生きがい大学の開設 ⇒年度内中止	年間	文化センター・TOM・さざ波ほか	高齢者が充実した生活を送られるよう学習活動の機会を提供する。自主活動としてのクラブ活動も支援する。統合3年目を迎え、自治会組織などにおける業務分担の明確化を図る。	報償費252千円 需用費51千円 印刷製本84千円 借上料800千円	—	147名入級、5クラブ。2度の延期の後、8/4役員会を開催した中で「心情として怖い」との意見が尊重され、今年度の全日程休校を決定した。ただし、自主活動としてのクラブ活動は、一部実施している。	5-1 5-2 5-3 5-4
	世代間交流事業・社会活動参加奨励	年間	学校ほか	学校からの求めに応じ、小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図る。	—	—	学校からの依頼を受け、総合的な学習の時間への支援を実施予定であったが、湧別小3年生との昔遊び交流、生きがい大学クラブ活動と上湧別中3年生との交流、いずれも中止。	
芸術	文化団体の育成援助	年間	—	芸術文化活動の振興を図るため文化連盟等の育成援助を行う。町内両文化協会については、令和2年度、湧別町文化連盟として統合予定。	補助金 350千円		令和2年度より湧別地区文化協会13団体、上湧別地区文化協会18団体が湧別町文化連盟として統合し、総合文化祭などの文化活動を展開する。	6-2 6-4
	鑑賞機会提供団体の育成援助	年間	各文化センター	A.良いもの見よう聞こう会の活動支援 B.企画委員会ビッグ・ウェーブの活動支援 C.その他実行委員会等への活動支援	補助金 10,000千円		A.良いもの見よう聞こう会 0公演 B.企画委員会ビッグ・ウェーブ 0公演 C.その他実行委員会 0公演 新型コロナウイルス感染症に伴い中止 開催予定なし	6-1 6-2 6-4
文化	幼児芸術鑑賞会 ⇒中止	7/8(水) 7/9(木)	各児童センター	幼児対象（2日2公演） 公演内容 「どうぞのいす」人形劇団ポポロ	公演料 500千円		（有）人形劇団ポポロ「人形劇 どうぞのいす」公演 →新型コロナウイルス感染症に伴い中止	6-1
	児童芸術鑑賞会 ⇒中止	9/7(月)	文化センターさざ波	小学生対象（1公演） 公演内容 「海底2万マイル」劇団ボブラ ※町内小学校5～6年生の紋別市鑑賞会の参加なし。次回参加は令和3年度の予定。	公演料 500千円		（株）劇団ボブラ「海底2万マイル」公演 →新型コロナウイルス感染症に伴い中止。公演は次年度繰越。 ※次年度5～6年生は、紋別市で劇団四季こころの劇場を鑑賞予定。	6-1
活動	中学生芸術鑑賞会 ⇒中止	10/5(月)	文化センターさざ波	中学生対象（1公演） 公演内容 「真夏の夜の夢」(株)笑う猫文化事業局	公演料 500千円		（株）笑う猫文化事業局「真夏の夜の夢」公演 →新型コロナウイルス感染症に伴い中止。公演は次年度繰越。	6-1
	第11回子どもミュージカル体験事業	R3. 1/6～12 発表会 1/12(火)	文化センターTOM	子どもを対象に、専門家の指導によるミュージカル演劇の練習から発表までを体験することにより、芸術文化を楽しむる素養を養い、コミュニケーション力の向上と連帯感の醸成を図る。	事業費 1,120千円			6-1
振興	文化芸術作品展示会等の奨励	年間	文化センター	湧別町文化連盟加盟団体や町民個人を中心に、絵画や写真などの展示を実施し、芸術文化活動の振興を図る。	—			6-2 6-3 6-4
	カルチャー教室	年間	町内施設	子どもから大人までを対象に趣味や一般教養など町民のニーズに合った講座等の開催に努める。	講師謝礼 80千円			6-1
大会	第35回サロマ湖100kmウルトラマラソン⇒中止	6/28(日)	湧別総合体育館裏	100kmスタート午前5時00分（100kmの部）総合体育館裏（東道路上） 6/27にはウェルカムパーティー・開会式を開催	負担金3,000千円	-	中止	
	湧別町少年柔道大会「上野カップ2020」⇒中止	10/3(土)～4(日)	湧別総合体育館・武道館	本町のふるさと応援大使であり、柔道オリンピックメダリストの上野姉妹の冠を掲げた全道規模の小・中学生の柔道大会を開催することにより、少年相互の親睦を深め、町の活性化や交流人口の増加を図る。 参加規模：道内外小・中学生400名 大会には上野姉妹のほか、現役の女子柔道の著名人を招致する予定。	歳入総額 710千円 歳出総額 3,561千円	-	中止	9-1 9-2 9-3 9-4
催等	町民体カテスト⇒中止	11/29(日)	文化センターさざ波	町民に対してスポーツや運動を継続して続けることの大切さや健康づくりを高めるきっかけづくりを図る。	スポーツ推進委員報酬32千円	-	中止	
	第45回町民300歳バレーボール大会⇒延期 3月予定	12/6(日)	湧別総合体育館	自治会対抗形式9人制バレーボール大会	消耗品26千円 食糧費33千円			

令和2年度社会教育事業（上半期実績）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額 事業終了分のみ	実績（状況）等	中期計画 推進項目
スポーツ教室・講習会事業	ジュニアスイミングスクール ⇒中止	7月	湧別フル（第1回）	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさを味わわせ、水泳の普及拡大を図る。	講師謝礼 48千円	-	中止	
		8月	湧別フル（第2回）				中止	
スポーツ教室・講習会事業	町民ランニング教室 ⇒中止	5/9（土）	湧別中学校 百年記念 広場	基本姿勢から高度な技術、さらには運動前後のストレッチを習得することで、運動能力の向上や怪我の予防、運動を始めるきっかけづくりを図る。 ①中学・高校部活動の部 ②ランニング教室 ③陸上教室 講師：作、AC北海道代表 作田 徹氏 作、AC北海道 菊地 真司氏 他予定 サポート：北海道大学陸上部 対象：小学生～一般	講師謝礼120千円	-	中止	9-1 9-2 9-3
スポーツ教室・講習会事業	少年少女初心者スケート教室	R3. 1月予定	芭露スケートリンク	初心者に対してスケートの楽しさを味わわせるとともに、技法を習得させる。	講師謝礼 12千円			
	クロスカントリースキー教室	R3.2月 上旬予定	五鹿山スキー場	スキーの楽しさを味わわせるとともに、初心者から上級者まで幅広い技法を習得させる。 講師：阿部雅司（リレハンメル五輪金メダリスト）	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬7千円			
	健康運動教室 ⇒4～7月は中止	4月～3月	湧別総合体育館	トレーニング器具等を使った個人（または集団や団体）指導を行うことにより町民に健康維持増進と体力の向上を図る。 担当：運動指導職員 原 菜畝 補助：スポーツ推進委員	スポーツ推進委員 報酬77千円 費用弁償12千円	スポーツ推進委員 報酬25千円	4月参加者8名（4/11のみ）、8月参加者15名、9月参加者13名（9/12のみ）	9-1 9-2 9-3
	運動指導 ⇒4～7月は中止	4月～3月	湧別総合体育館他	①湧別総合体育館トレーニングルーム指導 水・金（9：00～11：00） 火・木（14：00～16：00） ※曜日・時間は変更する可能性有 ②個別運動相談・トレーニングメニュー作成 ③保健福祉分野との連携	-	-	4月参加者10名、8月参加者9名、9月参加者10名	
	【新規】 かんたん筋トレ教室	9月	湧別総合体育館	湧別総合体育館に新規機器（フリーダムラック）を導入したことに伴い、利用者へ正しい機器の使い方や基本動作を学んでもらうことを目的とし、利用者のマナーアップや怪我の予防、体力向上を図る。	-	-	9月1日（火）、3日（木）、9日（水）、11日（金）開催 参加者7名	
スポーツ推進委員事業	チャレンジスポーツスクール事業	5月～3月	湧別総合体育館他	低学年から様々なスポーツに触れることで、自分に合ったスポーツを見つけ出すきっかけづくりと、学校を越えた友達づくりの一助とする。 5月 入学式・鬼ごっこ（湧別総合体育館）中止 6月 フットベース（湧別総合体育館裏）中止 7月 キャンプ（湧別総合体育館裏）中止 8月 室内雪合戦（レイクハルス） 9月 パークゴルフ（湧別総合体育館） 10月 風船バレー・ミニバレー（湧別総合体育館） 11月 カローリング・ハッピーボーリング・ベタンク（湧別総合体育館） 12月 フロアボール（湧別総合体育館） 1月 スケート体験・氷上ホッケー（芭露スケートリンク） 2月 タグラグビー（湧別総合体育館） 3月 ミニ運動会・卒業式（湧別総合体育館）	講師謝礼 パークゴルフ 5千円 フロアボール 10千円 タグラグビー 5千円 スポーツ推進委員 報酬292千円	講師謝礼 パークゴルフ 5千円 スポーツ推進委員 報酬25千円	8月22日 入学式・フットベースボール：27名 9月12日 パークゴルフ：20名 10月 4日 五鹿山マラソン：27名	9-1 9-2 9-3

令和2年度社会教育事業（上半期実績）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額 事業終了分のみ	実績（状況）等	中期計画 推進項目
スポーツ推進委員事業	巡回スポーツ指導	随時	町内	自治会・老人クラブ等の要請に基づき、スポーツ推進委員が出向き、軽スポーツやレクリエーションの指導を行う。	スポーツ進委員報酬26千円			
	スポーツ推進委員研修	随時	管内道内	町民のスポーツ活動の的確な支援を行うため、研修を通じて委員としての資質向上を図る。 遠軽・紋別地区スポーツ推進委員研修会 オホーツク管内社会体育振興セミナー 北海道スポーツ推進委員研究協議会	スポーツ進委員報酬135千円 費用弁償98千円		遠軽・紋別地区スポーツ推進委員研修会兼オホーツク管内社会体育振興セミナー→10/24（土）開催予定 北海道スポーツ推進委員研究協議会→中止	9-2 9-3
団体活動の育成援助等	少年スポーツ団体の育成援助	年間	-	少年団本部への補助	補助金600千円	補助金600千円		
	一般スポーツ団体の育成援助	年間	-	体育協会への補助	補助金735千円	補助金735千円		
	大会出場助成	年間	-	全道大会以上の出場者に対して遠征費の一部を助成する。（湧別町スポーツ・文化遠征費補助金）	補助金2,000千円	補助金1,058千円	10月現在 4件	9-2 9-4
	合宿誘致助成	年間	各施設	合宿を誘致することにより町のスポーツの振興を図る。 （湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金）	補助金2,423千円 詳細は別紙関連事業に記載のとおり		9月現在 0件	
施設の整備活用	施設の整備	年間	各施設	施設の点検、適正な維持管理を図る。	詳細は別紙社会教育施設整備計画のとおり		別紙社会教育施設整備計画のとおり	
	施設の活用	年間	各施設	指定管理施設の適正かつ効率的な運営に対する監督、学校開放施設に関する利用調整など体育施設の有効活用を図る。	学校開放運営報償190千円			9-4
その他	スポーツ安全保険の加入促進	随時	-	広報及び事故手続き等の補助	-			9-2

令和2年度社会教育事業（上半期実績）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額 事業終了分のみ	実績（状況）等	中期計画 推進項目
書	図書館資料の収集、整理、保存	通年	両館	・町民ニーズに合った図書、逐次刊行物、視聴覚資料等を計画的に幅広く、豊富に備え、保存する。常に新鮮で適切な蔵書構成を維持する。 ・本の修理ボランティア活動	資料費（図書、雑誌、新聞、視聴覚） 8,415千円		（8月末現在） 蔵書冊数 図書 中湧別 73,820冊＋湧別 66,806冊＝140,626冊 雑誌 中湧別 1,172冊＋湧別 1,119冊＝2,291冊 視聴覚資料 中湧別 1,271点＋湧別 1,759点＝3,030点	7-1
	利用促進、読書機会の提供	通年	両館	・調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。			（8月まで）開館日 106日（前年 128日）*臨時休館 4/20～5/15 ・来館者 中湧別 3,450名＋湧別 1,501名＝4,951名 （前年 中湧別 6,014名＋湧別 2,867名＝8,881名） ・本館貸出人数 中湧別 2,650名＋湧別 1,429名＝4,079名 （前年 中湧別 3,887名＋湧別 2,156名＝6,043名） ・本館貸出冊数 中湧別 11,227冊＋湧別 6,022冊＝17,249冊 （前年 中湧別 13,686冊＋湧別 7,721冊＝21,407冊）	7-2
				新着図書案内や図書館行事など、最新情報の提供に努める。 ・読書通帳提供 ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの活用			・特別展示の実施 ・ブックガイド、読書通帳発行、配布 ・図書館見学（各小学校） ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの更新	7-2
				来館が困難な町民に対して宅配便を活用して個別に配送貸出を行う。 ・宅配貸出サービス			登録者 1名 延べ利用数 64冊（8月まで）	7-2
	ブックスタート	毎月1回	健診会場	4ヶ月児健診時に、乳児とその保護者へブックスタートバック（絵本などが入ったバック）をメッセージと共に手渡す。また、5歳児健診時には絵本を1冊とブックガイドを渡す。 協力（バック制作） ・ルピナスの会 協力（読み聞かせ） ・リーディング倶楽部たんぽぽ ・湧高ボランティア部			（9月まで） ・ブックスタート 23組 ・ブックスタートプラス 12組	7-2
	絵本くらぶ	年間 （毎月1回）	両館	3歳までの乳幼児がいる家庭におすすめ本セットを宅配する。（登録制）			（8月まで） ・述べ 95名 475冊	7-2
	移動図書館車の運行 ⇒7月開始	通年	両館	移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に据え、子どもから大人まで図書に出会う場を上げ、読書活動の推進を図る。 図書館職員が選本した文庫を配本する。 ・各小中学校、義務教育学校、湧別高校 ・各郵便局 ・児童施設 ・高齢者施設等			（8月まで） ・個人団体貸出冊数 9,192冊（昨年 14,672冊） 内訳 個人 1,547冊（昨年 4,354冊） 団体 7,645冊（昨年 10,318冊）	7-3
	学校図書館支援	通年	町内学校	・クラス配本 ・学校図書館用図書の購入支援 ・学校図書館レイアウト相談 ・調べ学習用図書整備 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学の受入 ・職場体験の受入 ・読書オリエンテーション			・クラス配本 ・学校図書館用図書の購入支援 ・学校図書館レイアウト相談 ・調べ学習用図書整備 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学の受入 ・読書オリエンテーション	7-4
映画上映会	年2回	湧別 図書館	湧別図書館の多目的室を活かし定期的に映画会を行う。	消耗品 50千円 （DVD）		適切なコロナ対策を確立出来ないため、今年度は、中止とした。	7-2 7-3	

令和2年度社会教育事業（上半期実績）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額 事業終了分のみ	実績（状況）等	中期計画 推進項目
図書館	古本市 ⇒ロビー展示に変更	7月・8月	両館	古本、古雑誌のリサイクル活動。 協力：湧高ボランティア部			9月からロビー等にて実施	7-2 7-3
	特別展示	9月～10月	両館	町民大学講師著作展示			町民大学講師著作展示	7-2 7-3
		年間	両館	テーマ：年中行事			母の日、貸出ランキング、大人の脳トレ、父の日、日本書紀、ユーモア絵本、雨を楽しむ絵本、エコをはじめよう、七夕、日本絵本賞	
		4/23～ 5/10	両館	子ども読書週間			絵本「ノラネコぐんだん」（中湧別図書館） 幼稚園絵本大賞受賞作品（湧別図書館）	
		10/27～ 12/5	両館	読書週間			本でGOTOトラベル 10/27～11/22 中湧別図書館 新聞記事で振り返る湧別の昭和 10/27～11/14 湧別図書館	
		11/26～ 12/8	中湧別 図書館	絵本原画展示	著作物使用料 30千円		絵本原画巡回展「猫写真パネル」7/2～7/12 「にゅうしちゃん」11/26～12/8	
		年間	両館	協力展示（展示スペースの貸出）	—		教科書、日ハムキャンペーン「青少年のための200冊」、町民大学講師著作	
活動	連携・ネットワーク	通年	両館	・ボランティア、サークル育成 読み聞かせ活動支援（りんごっこ、リーディング 倶楽部たんぽぽ、湧別高校ボランティア部） 読書推進活動支援「オープンブックカフェ」			適切なコロナ対策を確立出来ないため、活動を休止している。	7-4
		年3回	児童セン ター	・児童センター事業支援 読み聞かせ会参加協力、読書推進事業の実施	消耗品 教材 20千円		10/21 子育て支援センター事業 絵本講座	
		会議3回 研修2回	湧別 図書館	・図書館協議会 定例会議 委員視察研修（遠紋ブロック研修会） （オホーツク管内公共図書館協議 会）			第1回会議 6/30 出席委員 5名	
		未定	湧別 図書館	・紋別遠軽ブロック研修会（主管）			11月開催予定 テーマ「非常時、災害時の危機管理」	

令和2年度社会教育事業（上半期実績）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額 事業終了分のみ	実績（状況）等	中期計画 推進項目
文化財保護	文化財の保護① 埋蔵文化財	年間	町内各所	<ul style="list-style-type: none"> ○開発行為に伴う埋蔵文化財の保護事業 <ul style="list-style-type: none"> ・開発事業者との事前協議と各種調査 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 <ul style="list-style-type: none"> ・現状確認作業（遺跡パトロール） ・周知資料の整備 ◎シブノツナイ竪穴住居跡の発掘調査 <ul style="list-style-type: none"> ・竪穴住居跡の年代等内容確認 ＊7月16日～8月12日予定 ○道教委による重要遺跡確認調査の支援（川西2遺跡）実施未定 		文化財環境整備委託料 (史跡等草刈り分) 374千円	<ul style="list-style-type: none"> ○開発行為に伴う埋蔵文化財包蔵地の保護活動 <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財保護のための事前協議：12件 ・所在調査：1件（試掘調査の実施決定：道教委実施） ・包蔵地カードの内容確認作業（地番と土地所有者の確認） ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 <ul style="list-style-type: none"> ・現状確認作業（遺跡パトロール）随時実施 ・周知資料の整備 ・道史跡内の国有地について協議 ◎シブノツナイ竪穴住居群の保護 <ul style="list-style-type: none"> 遺跡の内容詳細を把握するための発掘調査 7月16日から8月12日 ○道教委による重要遺跡確認調査の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・川西2遺跡：今年度は発掘調査なし（昨年度の出土資料の分析調査は継続中） ・令和2年度第1回竪穴住居跡群調査懇談会 湧別町で開催 7月22日（道教委主催） 	8-1
	文化財の保護② 自然関連	年間	町内各所	<ul style="list-style-type: none"> ○北海道指定文化財アッケシ草群の経過観察 ○天然記念物の手続（死亡・はく製・調査） <ul style="list-style-type: none"> ・オンロワン ・タンチョウ ○記念木業務における関連部署との調整 			<ul style="list-style-type: none"> ○北海道指定文化財「佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落」の経過観察 <ul style="list-style-type: none"> ・経過観察の実施（9月） ○天然記念物の手続（死亡・はく製・調査） <ul style="list-style-type: none"> ・0件 ○記念木 <ul style="list-style-type: none"> ・0件 	8-1
博物館活動	博物館資料① 収集	年間	郷土館・ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> ○資料寄贈への対応（おおむね昭和20年代以前の資料を対象） 			<ul style="list-style-type: none"> ○資料寄贈への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・寄贈資料受入6件（タンス、マスほか） ・埋蔵文化財の譲与申請1件 ＊令和元年度発掘調査資料（遺跡名：シブノツナイ竪穴住居群） 	8-1
	博物館資料② 整理・保管	年間	郷土館・ふるさと館JRY・収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> ○考古資料 <ul style="list-style-type: none"> ・三宅コレクションの整理 ○開拓関連資料 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の写真撮影 ・保存環境の整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 <ul style="list-style-type: none"> ・分類整理（同種資料整理） ・資料外保管物の処分 ・JRY収蔵量増加 ・移動の準備（旧邑小体育館） ○収蔵資料の特別利用許可に関する業務 	旧邑小体育館 収蔵棚作成 2775千円		<ul style="list-style-type: none"> ○考古資料 <ul style="list-style-type: none"> ・湧別市川遺跡出土資料の計測と資料台帳作成 ◎三宅コレクションの整理と台帳整備 ○収蔵庫の管理と資料保管 <ul style="list-style-type: none"> ・上湧別収蔵庫：資料清掃 ・旧邑露小学校体育館：移動式収蔵棚の製作 ○収蔵資料の特別利用許可 <ul style="list-style-type: none"> ・2件（郷土館常設展示資料ほか） 	8-1
	調査研究	年間	—	<ul style="list-style-type: none"> 【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> ◎屯田資料 ・文書資料等の分類整理 ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・冬季演習資料の分析 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活 【埋蔵文化財の保存・活用】 ○保存（主にシブノツナイ竪穴住居群） <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度発掘調査概要報告書の作成 ・竪穴住居跡の年代と集落形成に関する研究 ・北海道考古学会 研究大会発表（11月） ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡を活用した博物館教育の実践的研究 			<ul style="list-style-type: none"> 【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料の保存に関する調査研究（害虫等） ・資料清掃および注記（大型機械、消防関連資料） ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・火・炊飯体験の方法研究 ・冬季の生活 ・（通史）新任教員用資料の更新 【埋蔵文化財の保存・活用、博物館教育】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集：シブノツナイ竪穴住居群と他の探文文化の集落構成の比較 ・科学分析：粘土組成分析（シブノツナイ竪穴住居群採取）北海道大学大学院専門研究員 今泉和也 ・発掘調査：シブノツナイ竪穴住居跡 令和2年度発掘調査概要報告書（3月下旬発行予定） ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究：遺跡散策ガイドブック『遺跡のミカタ』の更新 ・事例発表：北海道考古学会研究大会『北海道に残る2万3千の竪穴』11月21日、札幌市（予定）「湧別の大規模竪穴群」（仮題） ・原稿提供：道博協学会職員部会第7回コラム『学芸員のお仕事』『発掘調査は一石三鳥のお仕事！?』（9月投稿） 	8-1

令和2年度社会教育事業（上半期実績）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額 事業終了分のみ	実績（状況）等	中期計画 推進項目
博物館活動	展示	年間	郷土館	<ul style="list-style-type: none"> ○収蔵資料の展示 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の発掘調査成果展（仮） ○郷土館ガイド <ul style="list-style-type: none"> ・展示解説（5月～9月）→今年度中止 ・解説活動のためのガイド研修会 			<ul style="list-style-type: none"> ○展示 <ul style="list-style-type: none"> ・シブノツナイ堅穴住居群 令和元年度調査速報展：6月26日から12月27日まで ○郷土館ガイド <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド活動：中止（例年は5月～9月に実施） ・100キロマラソン前日の展示解説会：中止 ・研修会：中止（例年、発掘調査や近隣の博物館を視察） ・上野カップ当日の展示解説会（中止） ○入館者数（9月30日現在） <ul style="list-style-type: none"> ・153人（大人132人、内町民14人、子ども21人、内町民12人） 	8-2
			ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示更新 <ul style="list-style-type: none"> ・解説パネルの追加 ・整理済み資料の追加 ・展示物固定 ○収蔵展示室整備 			<ul style="list-style-type: none"> ○入館者数（9月30日現在） <ul style="list-style-type: none"> ・294人（大人211人、内町民26人、子ども83人、内町民17人） 	8-2
	博物館教育① 学校授業・研修会・講座	年間	郷土館・ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> 【学校授業・研修会・講座】 ○開拓の歴史 （博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習として実施） <ul style="list-style-type: none"> ・労働体験（鉾・斧・鉈） ・炊飯体験（薪ストーブ・羽釜） ・開拓期の衣体験 ・囲炉裏疑似体験（屯田生活体験館） ○先史文化 （地域の財産である遺跡に触れ、親しむ機会の提供） <ul style="list-style-type: none"> ・先史の工夫を体験するモノづくり学習（土器・勾玉） ・遺跡に親しむフィールドワーク ・遺跡の知識を深める考古学関連講座 発掘調査報告会 ⇒11/28(土)予定 <ul style="list-style-type: none"> ※調査成果に応じて実施を判断する ・発掘調査現地説明会の開催 ⇒中止 ・大学と発掘調査を通じた連携 			<ul style="list-style-type: none"> 【学校授業、研修会等の学習機会提供】 ○団体見学及び授業件数（9月30日現在） <ul style="list-style-type: none"> ①ふるさと館JRY：8件76人（内学校：7件73人） ②郷土館：1件8人（内学校：1件8人） ③出張講演：6件121人（内学校：6件121人） ④施設利用：0件0人 【講座等】 ○発掘調査現地説明会、郷土館展示解説会：中止 ○令和2年度発掘調査成果報告会 11月28日(土)（予定） <ul style="list-style-type: none"> 午前の部：10：00～11：00 午後の部：13：30～14：30 参加者数各20名 	8-3
博物館教育② 広報・情報提供	年間	—	<ul style="list-style-type: none"> 【広報・情報提供】 ○博物館だよりの発行（湧く湧く内、HP） ○郷土史に関する情報提供及び質問対応（レファレンス） 			<ul style="list-style-type: none"> 【情報公開】 ○広報 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館だよりの発行（湧く湧く内）：4～9月号（124号～129号） ○郷土史に関する問い合わせ <ul style="list-style-type: none"> ・4件（屯田兵祖先調べ、チューリップの歴史など） 	8-3	

中期計画推進項目の欄は、第2次湧別町社会教育中期計画における推進項目との対応を示すものです。

中期計画における領域	推進項目	表記
第1節 家庭教育	学習機会の提供	1-1
	活動等の支援	1-2
	学習環境づくり	1-3
	連携ネットワーク	1-4
第2節 少年教育	学習機会の提供	2-1
	活動等の支援	2-2
	学習環境づくり	2-3
	連携ネットワーク	2-4
⋮	⋮	⋮
第10節 生涯学習の基盤整備	学習推進体制整備	10-1
	施設整備・活用	10-2
	学習情報収集・相談	10-3
	指導者養成・団体	10-4
	連携ネットワーク	10-5

令和2年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	実績（状況）等	備考
青少年指導センター	子ども会フットボール大会	6/21(日) 中止	湧別小グランド	単位子ども会の大会への参加を通して、青少年の健全育成を図ると同時に、地域子ども会活動の促進と、相互の交流を図る。また、監督会議や反省会等を通じ、育成会からなる組織運営の健全化を図り、地域自治の基盤づくりを支援する。	6月の小学校運動会の延期、競技の練習期間を含めて予防策が十分に取れないとの判断から中止を提案。延期については、他の行事予定が既に詰まっていることから、不可能と判断。	
	子ども会交通安全駅伝競走大会	8/30(日) 中止	開盛小 → 中湧別小		6月18日、役員会で実施の可否を協議。選手のバス移送など密集が課題となり、代替案として選手の移送を伴わない周回コースでの大会を提案。52年続いてきた駅伝競走大会の歴史を踏まえ、「周回コースでの開催は、駅伝競走大会とは違う」との意見を尊重し、駅伝競走大会は中止とし、別に「子ども会交流リレーマラソン大会」という名称でチューリップ公園内での大会を企画。8月4日、監督会議開催。監督会議時点で、7組参加予定であったが、最終的（8/26）には3チームのみとなった。8月26日に役員と教委で協議を行った結果、この参加数では競技が成り立たないと判断され中止となった。	
	子ども会ミニバレーボール大会	11/22(日)	農村センター 湧別総合体育館		10月22日監督会議開催予定	
	子ども会リーダー研修会	7/30(木)~31(金) 3/25(木)~26(金)	五鹿山公園 ⇒中止 紋別生涯学習センター	社会教育事業 少年教育参照	社会教育事業 少年教育参照	
	中高生リーダーの養成	年間 ⇒1月開始	ふるさと館JRYほか	リーダー研修会の企画運営などを通じた、中・高生リーダークラブ「E=QV L（イーキューエル）」および「Rainbow prop（レインボープロップ）」と、その指導にあたる青少年指導員の活動を支援し、地域づくりやまちづくりに参画できるリーダーの養成に努める。	青少年指導員：4名 E=QV L：13名登録 Rainbow prop：1名登録 7/23~24事前1泊研修会（中止） 7/30~31第1回リーダー研修会（中止）	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに健全育成を図る。①あいさつ運動②指導、補導③青少年だより発行④優良青少年表彰	①あいさつ運動②街頭補導③青少年だより発行	
文化連盟	総合文化祭	芸能の部 10月~11月	文化センターさざ波	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。令和2年度より、湧別地区・上湧別地区を統一して開催予定。	新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い中止	
		展示の部 10/17~18	文化センターTOM			
良いもの男ようちんこ会	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	8/22(土) 文化センターさざ波 ⇒中止 ミッフィーこどもミュージカル 9/18(金) 文化センターTOM ⇒中止 清水ミチトーク&ライブ2020	新型コロナウイルス感染症に伴い中止 公演は次年度繰越予定	
ビッグ・ウェーブ	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	未定		

令和2年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	実績（状況）等	備考
体育協会	ゆうべつ五鹿山マラソン2020	10/4 (日)	五鹿山スキー場	五鹿山スキー場を駆け上がるマラソン大会を実施することにより、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりと地域の更なる一体感の醸成を図ることを目的とする。	一般の部（男子17名・女子5名） 22名 高校生（男子）の部 22名 中学生の部（男子3名・女子2名） 5名 小学生（高学年）の部 8名 小学生（低学年）の部 32名 合計 89名	教委、スポーツ推進委員も運営協力
	【新規】チャレンジデー2020	5/27 (水) (中止)	町内	住民総参加型のスポーツイベントである「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進する。	中止	
実行委員会	厚別アトムズ合宿（少年野球）	7～8月	中湧別・湧別球場	練習試合をメインとした合宿で、町内野球少年団との交流により、スポーツに対する意欲の向上を図る。 合宿予定人員：40名（指導者含む）予定	中止	
	日本大学体育会合気道部合宿	10/30 ～11/3	レイクパレス	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との交流を図る。 合宿予定人員：30名予定	中止	
	駒大苫小牧高校野球部合宿	8月	湧別野球場ほか	名門野球部を誘致し、近隣市町村を含めた高校との練習試合を町内で開催することにより、町民のスポーツに対する興味・関心を引き、スポーツによる町の活性化を図る。 合宿予定人員：90名予定	中止	
	札幌合気会合宿	9/19 ～21	レイクパレス	町内で合宿を行い、公開練習等を通して町民と交流を図るとともに合気道の普及を図る。 合宿予定人員：30名予定	中止	
	北柔会関連道場柔道合宿	10月	湧別総合体育館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室を開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。 合宿予定人員：80名（指導者含む）予定	中止	
	湧別原野林-ツカロカトリス-スキー大会	R3. 2/28 (日)	遠軽町→湧別町	原野コース80km、北大雪コース56km、遠軽コース22km、湧別コース24km、10kmコース、5kmコース、駅伝コース95km		

令和2年度社会教育施設整備計画（500千円以上または主要なもの）

（単位：千円）

施設名	改修・整備等内容	事業費	実績額	備考
文化センターさざ波	建物塗装工事（さざ波西面 全5期中3期目）	13,400	12,100	工期R2.10.31
	地下内ピット排水ポンプ取替修繕	734	726	
文化センターTOM	非常用設備修繕	3,239	3,080	工期R2.10.30
	電動式移動観覧席修繕	3,063	3,063	工期R3.3.31
湧別総合体育館	トレーニング機器借上（5年リース） トレッドミル、アップライトバイク インパクトチェストプレス インパクトラットプルダウン インスティンクトペクトラルフライ/リアデルト インスティンクトレックプレス/カーフ インスティンクトレックエクステンション/カーフ 各1台（合計7台）	1,298	1,298	12ヶ月分
	フリーダムラック購入	1,878	1,859	備 品
中湧別総合体育館	大規模改修工事	303,800	300,850	
湧別運動公園	野球場不陸整正	5,830	5,720	
	LED街路灯設置工事	980	935	
五鹿山スキー場	五鹿山スキー場キューピクル部品取替工事	1,390	1,375	
	スノーモービル購入	1,290	1,243	備 品
ふるさと館JRY	JRY屋根修繕	1,297		

その他 【スポーツ・文化合宿誘致事業の現状と課題】

	目的等	ねらい・求める効果	反省評価	課題	方策
検討項目	①スポーツ・文化の振興	町民のスポーツ・文化振興への意識高揚		HP、管内スポーツ合宿総合サイトのみの周知となっている。 トップアスリート等のレベルでの使用可能な施設整備が必要	周知方法の工夫 施設整備の検討をする。
		技術向上へ向けた指導・助言	種目によっては、指導等の制限がある。	同 左	技術向上の機会の提供を図る。
		合宿者との交流	その他～なじみの薄い種目で種目人口が少ないものは交流は薄い	同 左	交流機会の提供を図る。
	②地域の活性化（経済効果）	宿泊施設の利用向上	民間宿泊施設自体が少ないし、宿泊業者への説明等は積極的に行っていない 高校生以下については、公共施設を利用している。	同 左	商工会や民間業者との協力を得る取り組みを行う。
		小売店、飲食店等の経済波及効果		店舗自体が少ない。利用はコンビニがほとんど	
		地域のイメージup	利用実績のPRが少ない	行政のみの取り組みとなっており、民間組織等の協力が必要である。	民間組織にも協力を得られるような、ネットワークづくりを行う
	③平成30年度・令和元年度実績	別紙【湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業実績表】のとおり	合宿事業費としては、30年度は、約7,000千円元年度では、約5,150千円となっており、この内、町内で消費したであろう金額の割合は、30年度は、約62%で、元年度では約50%となっている。 また、事業にに対する町補助金の割合は30年度は、約34%、元年度では、約28%となっており、元年度より食糧費については、補助対象外としたことにより、約6ポイント下がっている状況にある。	事業費の支出内容については、実績報告により把握ができていますが、この外に個人としての消費が、どの程度あるのかを含め分析する必要がある。	周知方法の工夫と利用者アンケートの実施
	④補助制度内容・あり方	小・中・高校生～2/3以内 大学生・社会人・実業団・プロ～1/3以内補助をすることにより、合宿者利用の増員を図る	道内の市町村より、手厚い補助制度となっているが、例年、同様な団体の利用にとどまっている現状にある。	補助金額の増額ではなく、空港からの足の確保や、町内施設間の交通などを含めて、制度の見直しが必要	先進事例も参考にして、「スポーツ合宿の選定要因」（下記）とされている事項の改善を図り、制度の見直しを検討する。
	⑤その他	他町村との補助制度内容の比較			

<p>(H27笹川スポーツ研究助成)</p> <p>※スポーツ合宿の選定要因</p> <p>①費用 ②気候 ③環境 ④サービス ⑤食事</p> <p>※地方公共団体の大きな期待</p> <p>○経済波及効果</p>	<p>※士別市 三つの強み</p> <p>①合宿した選手が出場する大会があれば、全国津々浦々へ担当者が応援に駆けつけていること</p> <p>②合宿者に耳を傾け、官民一体となって充実した受け入れ態勢を構築している。</p> <p>③ホテル・旅館は、無料のトレーニングルームの完備、合宿者からの声を参考にした食事サポートなどと利便性の改善を心掛けている。</p> <p>※2014年士別市経済波及効果</p> <p>○宿泊費、宿泊費以外の食事代、消費額、スポーツ合宿推進事業費、体育施設管理費、体育協会委託料 163,744千円</p>
---	---